

ウクライナ避難者支援

のための情報共有会議

— 第7回議事メモ

日時：2022年12月20日（火）18:30～20:30

開催方法：オンラインzoom

参加者：56名

* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- 官民が持てる情報を共有しましょう。
- 互いの過不足を補い合しましょう。
- 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

「暮らし」とは、

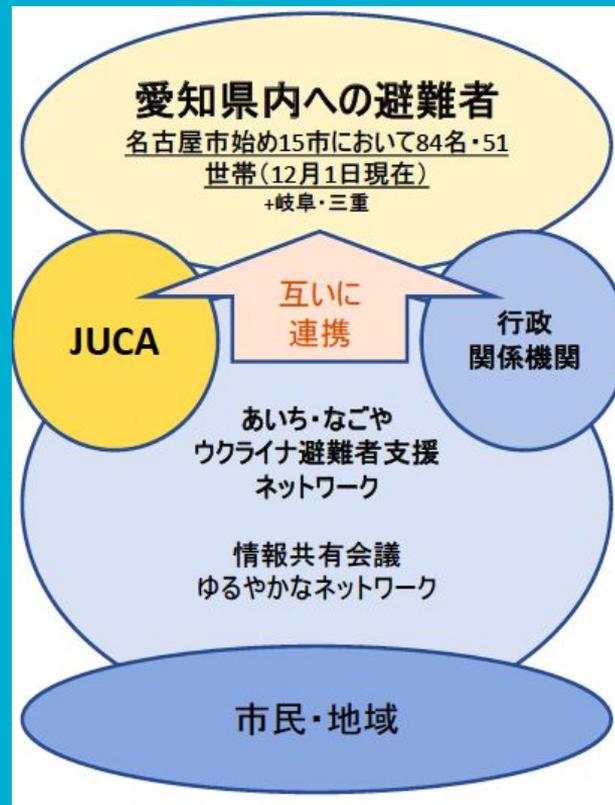
衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・

緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援
地域を基盤とする支援



挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

<最近のネットワークのイベントや支援>

- ・義援金贈呈の会、至学館大学の学生によるマッサージイベント、東日本大震災避難者とウクライナ避難者の刺繍・パッチワークを通じた交流イベント(飛び入りでフレニキというウクライナ料理をふるまっていた)などをネットワークとして実施した。また、同じく難民支援ということでアフガニスタンの方へも物資支援を行った。
- ・避難者との信頼関係を醸成した上で、個別訪問や交流相談会を実施したり、地域ごとに相談体制を確立し一人ひとりの命や暮らしを守ることを共通目的としたい。

<これまでの情報共有会議で確認したこと /会議の趣旨>

- ・JUCAがフル稼働で支援にあたっている。行政機関も大勢参加していただいているが連携して支援にあたりたい。
- ・ただ、関心も熱しやすく冷めやすいということもある。名古屋市が支援募集のチラシを作成中。広報も積極的に行っていきたい。市社協などにも配布に協力頂く予定。
- 提供型支援より、必要なときに地域や就職先などその場その場で相談に乗れること。緩やかにつながり、ニーズに応じた支援ということを共通の着地点にしたい。それぞれの支援の強化のためこのネットワークを活用していただきたい。
- 行政、専門職、民間、個人・・・できること・できないことが違う。できないことはカバーし合い、横の連携を広げることによって、避難者一人のために力を合わせる事が大事。
- 物の支援だけではなく、就業、教育、コミュニティ。言語の問題など中長期的な支援が必要。

JUCA(NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川ロリュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

<避難者の支援ニーズについて>

- ・戦争が続いており、ウクライナも寒くなったので、今月中にまた日本に避難する家族が1、2世帯あると聞いている。これからも布団、毛布、暖房が必要になる。ウクライナから避難してきても、夏に来日した人と違って持ってこれる冬服の量が少なく、より支援が必要。
- ・12/17に名古屋市と一緒にクリスマスイベントをした。ウクライナ料理を試食してもらい、冬の過ごし方を紹介。30人ほど参加。避難者が料理を作ってウクライナの文化紹介をした。避難者同士料理をしながら交流することで戦争のことを少しでも忘れることができた。
- ・12/18も子ども向けのクリスマスイベントをした。避難者とウクライナ語が少しわかる日本在住の子どもたちとの交流・プレゼント交換などのプログラム。また(一般の方が参加することはできないが)1/7に大人向けのクリスマスイベントを実施する。開催後報告したい。
- ・この1か月で避難者と一緒に出掛けるイベントをした。避難者だけで集まるのが落ち着いて過ごせるようで、子どもも大人もすごく喜んだ。このような集まりをすることでストレスを解放することができ喜ばれている。

<JUCAに寄せられている相談・困っていること>

- ・ウクライナは停電していて、冬の間は戻れないことが確定しているので、ストレスが溜まっている。集まり話すことでストレス発散となつてほしい。逆にお正月休みにウクライナに一旦戻るという人の話も聞いている。
- ・12/24で戦争が始まってから10か月になる。ウクライナではクリスマスのお祝いどころではない。戦争が続いているので忘れてほしい。12/24に15時~テレビ塔の前(錦通り)でデモを行う予定なので参加してほしい。
- 質問:電気がなくてもウクライナへ帰国するのか→危ないことはわかっているが、親に会いたい、子どもたちがお父さんに会いたいのので一時的に戻るという家族がいる。

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／レスキューストックヤード(RSY)事務局 加藤

<最近の取組>

家具、暖房器具、厚手の衣服をいただくことができ、まさに本日も届けてきた。避難者からは、個別で、またUCAを通じて要望をいただくのできるだけ応えるようにしている。至学館大学協力によるもみほぐしイベント、東日本大震災の避難者を行うパッチワーク交流会も実現した。

支援登録には新規の参加も若干あったが、件数は少ない。

●現状(11/14→12/20)

* 支援登録件数

企業・団体 48件→51件
個人 130件→137件

* マッチング件数

企業・団体 36件→43件
個人 37件→47件

物資支援(企・団4+個3) / 金品(個1) / イベント2(団1+個1) / 通訳(個1) / 運搬ボランティア2(団1+個1) / 託児2(個2) / 施設提供(団1)

* イベント

- ・宗次徳二氏による義援金贈呈式
- ・第二回 ヘアカットイベント
- ・「ウクライナデー『リーズドゥウォー』」支援登録者への案内

<個別相談と課題>

- ・個別相談:在留資格の変更手続きが必要な方へ都度対応している
- ・個別相談:仕事をしている人への所得税相談:日本人でも税金関連への理解は難しいのでウクライナ人への説明はさらに難しい。どのように周知するか内部検討中。また確定申告もあるので早めに周知したいと思っている。
- ・新規の人への生活用品の調達。ネットワークを通じて暖房や家具、声をかけて頂いたところへ取りに行き、お届けしている。新規来日者に関わらず不足している物資は季節に応じて変わっていく、調達の難しさを痛感している。この情報共有会議など広報の機会を活用して、より広く皆さんへ声をかけていって集めていきたい。
- ・新規の支援登録者が増えないことが課題。広報の準備をしている。

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク/レスキューストックヤード(RSY)事務局 加藤

●もみほぐしイベントにご協力頂いた佐藤さんより

〈至学館大学 人間力開発センター 佐藤さん〉

- ・ウクライナ支援として学内で冬物衣料の寄付を集めた。
- ・リラックスしていただくことを目的に、12月3日にもみほぐしイベントを開催した。避難民8名(うち子ども4名)参加。スポーツ系の大学の強みを活かし、アスレチックトレーナーとして学ぶ経験を積んだ学生が避難者にもみほぐしをした。また、留学生が通訳ボランティアをしてコミュニケーションを取った。子ども向けにはお菓子釣りを企画し学生と一緒に遊んだ。イベントの際に学内で集めた衣服の中から好きな衣服を持って帰っていただいた。
- ・学内で117点の衣服の寄附があり、ネットワークに寄贈。寄贈が難しいものは換金、3750円をJUCAIに寄付した。
- ・学生が現状を知る学びの場、教育的な観点からもありがたい。子どもの遊びの場などまた開催、協力したい。
- ・RSYスタッフより:学生のうちの数名は、事前に当団体事務所に来所、ウクライナ避難者の現状を学ぶなど非常に熱心に感じた。

※右写真は、学内報告用のために作成したチラシ(至学館大学人間力開発センター作成)

ウクライナ支援活動
ご協力ありがとうございました



頂いたご寄付の状況



合計117点の衣服等をご寄付いただきました。ご協力をいただきました学生、教職員の皆様、誠にありがとうございました。

ウクライナの方へのお渡し



12/3(土)に実施したウクライナ支援「憩いの場」に参加されたウクライナの方にお渡ししました。



「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」にお渡ししました。



一部、提供が難しい衣服は、換金のうえ総額3,750円を「NPO法人日本ウクライナ文化協会」へ寄付しました。

主催：人間力開発センター・学生会・有志学生
窓口：人間力開発センター(佐藤) human@stu.sgk.ac.jp

QRコードからご覧いただけます。



愛知県

社会活動推進課多文化共生推進室 太田さん

<最近の取組>

- ・新規に来日された方への一時金支給。SIMカードの配布、タブレットの貸与を継続している。
- ・毎週火曜日に実施しているオンライン日本語教室は本日最終回であったため、会場での開催。毎回5人～10人の主にシニア層が参加した。運営の名古屋YWCAの力もあり、笑顔溢れる教室になっていた。今年度はこれで終わりになるが来年度も支援を続けていきたいと思っている。
- ・RSYは個別にニーズを聞きながら一人一人への物資を支援しているが、愛知県では全世帯に配布できる物資を調整しており、12月分は衣服の配送をした。

名古屋市

国際交流課 石川さん

<最近の取り組み>

- ・名古屋市への新規避難者が引き続き増えている。
- ・12/17にクリスマスイベントを開催、30名ほどにご参加いただき報道もされパブリシティという意味でもよかったと思う。
- ・チラシ『あなたの支援を待っています』を作成した。物資、託児など供給側が増えたら、よりマッチングが増えると意図したもの。もちろん寄付金も税額控除の対象になるのでご協力をお願いしたい。
- ・名古屋市職員として活躍している避難者のサムソバ・テチアナさんが本日中学校でウクライナの文化を英語で紹介した。テレビでの密着報道もあった。今後もテチアナさんをあたたかく見守っていただきたい。

ウクライナの文化～クリスマスについて

NPO法人日本ウクライナ文化協会 (JUCA) 理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・ソビエト連邦の時は違うカレンダーだったので、12/25ではなく、1/7がクリスマスという習慣があった。しかし、2～3年前(今年からはより一層その動きが強くなった)から世界と同じカレンダーにするということで12/25をクリスマスしようという動きがある。
 - ・ウクライナではクリスマスはとても大事なイベント。家族で集まり、伝統的な肉なしの12個の料理を作りみんなで食べたり親戚が集まったり歌を歌ったりする。イースターも同様に大事な日である。
 - ・今年は気持ち的にお祝い気分になれない、ウクライナではイルミネーションもない。そのため12/24は(前述の)デモに参加する。
 - ・(進行役より)今日もキーウでは26時間停電したというニュースがあった。しかし、自転車で発電しツリーに点灯しているニュースがあった。このような状況の中で楽しもうとする心の強さがすごいと感心した。
 - ・厳しい中で頑張るしかないという気持ちを親戚からいつも聞いている。
 - ・12/18にJUCAが開催したイベントで、子どもがサンタに手紙を書いたがそのメッセージは「プレゼントはいらない、早く戦争が終わってほしい。ロシアが離れてほしい」というものだった。ウクライナの子どもは非常に厳しい中で生きていることに涙した。
 - ・ウクライナでは電気が足りないためツリーを飾ることに国内でいろんな意見があったと聞いているが、大変なトラウマやストレスを抱えている子どもたちに何とか少しでも楽しい思いを持って欲しいということになり、安全な場所に少しでもツリーを飾ることになったようだ。
 - ・1/7にクリスマスのお祝いをする習慣があるので、12/19～1月の3週目くらいまでツリーを長く飾る文化がある。
 - ・日本は12/26になるとあつという間にクリスマスが終わるので、避難者の皆さんにも文化が違うことを伝えている。
- 質問: ウクライナでもクリスマスはキリスト生誕をお祝いする意味合いなのか? お正月はどのように祝うのか?
→ウクライナでもクリスマスはキリストの生誕をお祝いするものである。しかし、サンタクロースは聖人ニコラウスがモデルとなった青い服のムィコライおじさんが12/19に子どもにプレゼントを渡す習慣がある。
- ・お正月は家族みんなで集まって楽しく美味しい料理を食べて過ごす。

ウクライナ避難者支援 義援金贈呈の会について

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 事務局長 浜田

- ・11月30日に宗次徳二氏からの義援金贈呈の会を行った。ワークライフプラザれある(金山)の会議室にて開催。避難者合計 23人が参加(岐阜と三重から2世帯、愛知15世帯)。
- ・もともとは、JUCAに宗次さんから連絡がありこの支援がスタートした。宗次さんは、今般のロシアによるウクライナ侵攻により避難されている人に、在留資格や国籍に関わらず広く支援したいと思って頂いているとのことで、いろいろな方に目を向けてくださっているのは非常に有難い。
- ・東海地域に避難している方の中で、JUCAも当ネットワークも繋がりがなかった方がいらっしゃり、そのような方にこの支援があることを伝えるために、自治体の担当者を通じて連絡をお願いすることとなった。さらに、避難者がたくさん集まる機会のため、交流の時間を作ることになった。
- ・結果、ウクライナ国内の同じ出身地域の人同士で交流することができたり、避難の経験を共有できた、気持ちの分かち合いができたという感想があった。JUCAの川口リュドミラさん、榊原ナターリアさんも民族衣装を着て活動紹介をしたり、初めて会う方から相談を受けたりといったこともあったと聞いている。また、自治体担当者から当日の様子について事務局に問い合わせがあったが、和やかな様子だったことをお伝えしたところ、安堵されていたということもあった。

ウクライナ避難者支援 義援金贈呈の会について

あいち・なごやウクライナ支援者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 事務局長 浜田

●宗次徳二氏からのコメント

「本日の第7回「ウクライナ避難者支援のための情報共有会議」に参加を予定しておりましたが、やむなく欠席となりましたこと、お詫び申し上げます。この度の、いわれなく納得のいかない上に、重く大きな不安と苦しみの続く中、ウクライナ国民、とりわけ日本に避難をされた皆様に、少しでも寄り添えれば ...との思いから、避難された皆様の状況を知り、又かかわる皆様方のお話を伺いたいという思いでの出席でした。本当に残念です。ウクライナ避難者へのご支援以外に、現状を拝見しながら、今後私にできますことを検討させていただければと思っています。ウクライナ避難者に関わる皆様のご健勝と一日も早く、穏やかな生活を取り戻せる日が参りますことを、心より強く祈っております。」

・参加した避難者が在住する自治体の担当職員より

避難者の言語に関して心配があったが、不都合なく、和やかに交流が行われたようなので良い場だったことがわかりよかった。会の終了後に、JUCAの事務所を訪問し、相談をしたり物資を受け取ったと聞いている。このような支援が市以外からも受けられるということがわかり、非常にいい機会となった。ありがとうございました。

情報共有／質疑応答

●質問: ウクライナから避難されてきた方で、お年寄りから小さいお子さんまでいらっしゃると思うが、寒さで体調崩されている方がいらっしゃるのではないかと心配しているが、いかがか。

→(JUCA: 川口リュドミラさん)ウクライナは外は寒いですが家の中は全体が暖かい、日本はトイレ・お風呂がとっても寒く、みんなどうやって暖めればいいのか困っている。慣れない生活によって、コロナではなくても風邪をひいている人が出てきた。それに対するアドバイスは暖かい服を着てくださいということしかできない。避難者の多くは、暖房便座付きトイレを持っていないので、便座シートを貼ることで代用していると聞いている。

・避難者には、毎日お風呂に入って体を温めてほしいと言っている。しかし、ウクライナでは毎日お風呂に入る習慣がない。また、避難者の多くが住む市営住宅などの風呂はおいだし機能がなく、風呂の温度もすぐに下がってしまう。ウクライナでは同じお風呂に3人入るといっても習慣がないのでシャワーだけという人も多く、体が温まらないので、風邪もひきやすい状況になっているのではないか。

・暖房もつけっぱなしにしてということは電気代がかかるので言えない。カイロなどを勧めている。

情報共有／質疑応答

●情報共有:名古屋入管:避難者には10月に手紙で案内したが、支援サイトのリニューアルをした。支援物資などの検索の際に写真で確認できるようにしたり、今現在必要なモノが掲載されていない時に、ウィッシュリストとしてニーズを登録することができるようになったので、活用いただきたい。

●情報共有:まもなく来日から1年を迎える方もいらっしゃる、在留資格の更新をどうしたらいいかという声もちらほら聞こえてくる。 「特定活動」の場合、必要な証明書等もあり3か月くらい前から手続きを進めたほうがいいのかということだが、手続きの際にウクライナ語の案内対応ができないと聞いている。避難者自身で申請書の記入は難しい状況であると思うので、JUCAや地域で支援されている方のところに申請書の記入依頼があると対応が大変になる。場合によっては、書類の不備で度々入管に出向かないといけないといったケースも発生するのではないかと。手数料についてもご存じない避難者もいると思う。そのようなアナウンスをどうしたらいいか。国際交流協会や自治体の相談窓口で対応できる場所、できないところがあると思うのでスムーズに手続きできるよう入管に相談したいと思っている。

●質問:避難民に在留資格更新の書類が届いたら、本人が入管に行けばよいのか？身元保証書は更新手続きに必要なか？

→入管から書類を送るといったことはない。在留資格期限が切れる3ヶ月前から手続きができるので、期限を認識しておいて本人が入管もしくは出張所に行く必要がある(未成年の場合は別)。身元保証書も必要。

●質問:3月に来日した人は、12月から更新手続きを始めなくてはならないということか？

→例えば、3月10日が在留資格の期限だとすると12月10日から手続き可能ということ。審査中はみなし期間として在留期間が伸びることになるので在留期限当日に申請することも可能だが、書類をすべて整えておく必要がある。詳細以下WEBサイト参照:出入国在留管理庁「在留資格の更新について」<https://www.moj.go.jp/isa/applications/procedures/16-3.html>

ブレイクアウトルーム共有

ブレイクアウトルームでは、参加者4 -5名で1グループとなり、自己紹介や活動の共有などを行った。グループで話し合われたトピックは概ね以下の通り。

- ・難民支援について学んでいる個人の方のグループ。避難者と直接お話したい、現状を知りたいとのことであったので、12/24のデモに参加することを勧めたり事務局の現状共有をした。すぐに状況が変化するので、最新の情報を入れながら支援を考えてほしいと伝えた。
- ・避難者との関係の作り方について。つらい思いをして日本に避難して来られて、人が集まった時にスムーズに話ができない方もいる。支援する側も家の中にずかずか入り込んだり、聞き出したりすることは避け、プライベートや距離感を大事にしたい。うまく距離感を調整して話し合いができると、その中からいい雰囲気生まれることがある。人と人の支援であると再確認した。
- ・自治体担当者で集まったグループ。支援内容のことで明日連絡しあいましょと繋がる案件がありよかった。愛知県被災者支援センターで開催しているような相談会のようなものがあるといいと話した。
- ・税理士が参加したグループ。避難者が税金関連でお困りだという話があった一方、税理士に何を相談していいかわからないという点も出てきた。個別状況があるので一律に話をするのは難しいが、今の時期であれば、源泉徴収票を会社から受け取ってれば、それを元に必要な手続きについて相談することができる。源泉徴収票を保管しておくことを案内したい。
- ・日本人でも源泉徴収票と給料明細の違いがわからない人も。土業の方に協力していただいて相談会を一度開催してはどうか。
- ・関心の薄れは引き続き課題であるが、文化イベントの開催等で関心を喚起していきたい。
- ・戦争状態でウクライナの障がい者の方がどう過ごしているか心配である。
- ・ウクライナ以外の出身国も含めた難民の支援について。難民の雇用について調査しているが、雇用している企業は大変控えめな姿勢でも一人ひとりに応じた支援をしているところがある。調査を通して、控えめな姿勢でないと支援が続かないということもわかってきた。

ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。